

# 日本は災害宿命列島

## 近畿整備局 竹林氏招き講演会

近畿地方整備局河川部は22日、大阪市中央区の大阪合同庁舎1号館で「風土が語る災害の宿命に関する」講演会を開いた。竹林征三山口大学時

士常葉大学名誉教授が「風土に刻まれた災害の記憶・防災を考える」近畿は災害と防災のルーツの地」をテーマに講演した。写真。講演会には約150人



が参加。竹林氏は日本列島が災害宿命列島であることを説明し、「日本列島は豪雨発生装置だ。しかも薄くて切れるカミソリ堤防でまちが守られて

いる。偉大な先人たちが国土を守るためにつくってきた川は、上流から砂などで天井川となり、ほかの国にはないような危険な状態が続いている」と警鐘を鳴らした。

さらに「火山、地震、津波、山地崩壊、水不足(渇水・火事)、あふれる水(洪水・浸水)、豪雨、台風銀座と高潮、豪雪の九難(苦難)と戦っていかねばならない宿命にある。特にゲリラ豪雨は同時多発傾向にある」と話した。

このほか、近畿の災害の歴史を振り返りながら、近畿の風土に刻まれた災害の伝言について、先人の知恵などを紹介した。